

(もしなくなっていた銀貨 1 枚を) 見つけたら、友だちや近所の女たちを呼び集めて、『なくした銀貨を見つけたから、いっしょに喜んでください』というでしょう。ルカの福音書 15 章 9 節



ぬりえした日 月 日

なんてみっともない！



さとるくんには宝物がありました。お父さんから買ってもらったティラノサウルスの絵の入った記念メダルです。毎日、おる前にはそれを手に取ってながめ、まんぞくするとまた大切にケースの中に入ります。

ところがある日、友達に「どうしても見たいから、持ってきて」とせがまれました。さとるくんはしぶしぶケースからとり出して、ハンカチで大切につつんで、待ち合わせた公園に持って行きました。メダルを見た友達はおはしやぎ。さとるくんもじまんげな顔。

ところが、そこにさとるくんたちにいつもいじわるをする子がやって来ました。「なんだいそんなメダル、ぜんぜんすごくないよ！」そう言うと、ひょいとメダルをとりあげて、公園の池にむかってほうりなげたのです。さとるくんの顔は、まっさお！でもおこっぺいるひまなんてありません。ダツとかげだすとかつのまま池にとびこんだのです。さいわい、ひげの上までのあさい池だったので、おぼれることはありませんでした。でもズボンばかりちやびちやです。それを見たはずらっ子は大笑い！「なんてみっともない！メダル一つのために池にとびこむなんて！」けれどさとるくんには、

そんな笑い声も聞こえませんが、友達がおるおとした顔で見守るなか、ざぶざぶと池のおくへ入っていきます。池の水草をかき分けて、くさいどろをほりかえして、メダルを探します。買ってもらった日のことを思い出したり、毎日がめることができなくなるのをそうぞうすると、目になみだがいっぱいたまっていました。もちろん、いたはずらっ子はそんなさとるくんの気持ちはわかりません。どれだけ大切かを知っているのは持ちゆしのさとるくんだけなのです。

「あつたー」ついにさとるくんは、どろに半分うまっていたメダルを見つけたしました。そしてそれをしっかりとつかみました。「ほ、はくしゅん！」自分が池の中にいたことに、ようやく気づいたようです。

じつはさとるくんがメダルをさがしたように、イエスさまはほくたちをさがしにきてくれました。さとるくんは大切なメダルのために池にとびこみましたが、イエスさまはほくたちのために十字架にかかって死んでくださったのです。

十字架につけられるというのは、いたくくらしいだけではなく「とってもほくらしいこと」でした。イエスさまはほかにされてみ

んなに笑われました。十字架にかかってころされるというのは「人間として一番みっともない死にかた」だと思われていたからです。イエスさまは神さまなので、本当はいつでも十字架からにげることができました。でも、なぜにげなかったのでしょうか？それには理由がふたつありました。

ひとつめの理由は、さとるくんが池に入らなければメダルをとることができなかったように、イエスさまは十字架で死ななければほくたちをたすけることができなかったからです。そしてもうひとつの理由は、イエスさまにとつてほくたちがとても大切だったからです。

イエスさまはほくたちのために十字架で死ぬことを「みっともない」とは思いませんでした。そして、さとるくんがメダルをにぎりしめて池から出てきたように、イエスさまは十字架で死んで、3日目にはふっかつしてくださいます。さとるくんがメダルをしっかりとつかんだように、イエスさまの愛はきみをしっかりとつかんでくださっているのです。

おいのり

.....
天の父なる神さま。わたしたちを大切に思ってくれて、わたしたちをさがしてください。ありがとうございます。
.....
イエスさまのお名前です。アーメン。

聖書箇所

聖書をもっている
おとなのひとに
よんでもらってね！

創世記 3章 8～9節

申命記 21章 22～23節

詩篇 119篇 31節

イザヤ書 53章 1～12節

マタイの福音書 26章 53～54節

ルカの福音書 15章 8～10節

ヘブル人への手紙 12章 2節